

平成18年度第1回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事概要

- 1 日時 平成18年4月1日(土) 11:00~12:00
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、セデューキン委員、ミレンコフ委員、太田委員、佐川委員、
魏委員、程委員 計8名
事務局職員
- 4 議事録署名人 太田委員、佐川委員
- 5 議事
議長より、教育研究審議会で学長に事故ある場合の代行は、黒田委員、太田委員の順位とする旨の発言があった。
(1) 教育研究審議会委員の選任
 - ・ 議長より、最初の審議会で選出される委員5名【(3名：審議会が定めるところにより学長が指名する副理事長、理事、又は職員)及び(2名：法人の役員又は職員以外の者で大学の教育研究に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから審議会の承認を得て理事長が任命する者)】について提案し、原案どおり了承された。
 - ・ 委員からは、今後、産業界からの委員選任も検討してほしい旨の要望があったが、議長から産業界からは経営審議会の委員に選任した旨の説明があった。(2) 公立大学法人会津大学中期目標について(報告)
 - ・ 議長より、地方独立行政法人法(以下「法」という。)に基づき、県から平成18年4月1日付けで中期目標が通知された旨の報告があった。
 - ・ また、議長より、この中期目標は大学が策定したものをもとに県が作成し、大学の意見も踏まえつつ福島県公立大学法人評価委員会において審議され、平成17年11月に知事に答申された後、平成18年2月県議会において議決されたものである旨の説明があった。(3) 公立大学法人会津大学中期計画案について
 - ・ 議長より、法に基づき、本日付けで県から通知された中期目標を受けて、法人として中期計画案を作成し、県の認可を受けるため平成18年4月1日付けで認可申請する旨の説明があった。
 - ・ また、中期計画案については、学内の意見を踏まえ策定し、四大・短大間で調整を行い、その後県と調整を行った後、評価委員会で審議されたものである旨の説明もあり、原案どおり了承された。(4) 法人規程案について
 - ・ 議長より、県立の大学としての学内規程は平成18年3月31日をもって失効したことから、公立大学法人としての法人規程等を策定した旨の説明があり、法人規程等については原案どおり了承された。
 - ・ 委員からは、一部の規程について英訳がなされていないものもあるため、英訳を進めてほしいなどの意見があった。(5) その他
 - ・ 議長より、審議会は今後、毎月第4水曜日に定期的を開催することとし(4月開催は未定)、5月を目途に平成18年度の年度計画を審議する予定である旨、説明があった。

平成18年度第2回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事概要

- 1 日時 平成18年4月26日(水) 15:03~16:31
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、太田委員、セドゥーキン委員、オーア委員、佐川委員、程委員、岡委員、リズィー委員、齋藤委員、新城委員
計12名
その他事務局職員
- 4 議事録署名人 程委員、ミレンコフ委員
- 5 議事
 - A 公立大学法人会津大学年度計画案について
議長より、平成18年度年度計画案のうち教育・研究にかかる箇所について説明があった。
委員からは、大学のサテライトオフィスの設置について具体的にどの場所を想定しているのかとの質問があり、いわき市や白河市の駅前再開発施設等を想定しているとの回答があった。これに対しては、東京の秋葉原には他大学のサテライトオフィスもあり、こういったところも検討してはどうかとの意見があった。
また、各事業の中でどの事業に予算の重点を置くのかを明確にすべきとの意見や、各事業ごとに誰が責任を負うのかを明確にすべきではないかとの意見があった。
その他、内容についての質問や確認があり、これらの議論をふまえて役員会に提案することが承認された。
 - B 教員採用方針について
議長より、教員採用につき、教員選考委員会の構成や採用の手続について説明があった。
委員からは、教員選考委員会の委員長には、学長も就任できるようにすべきではないかとの意見があった。
また、教員選考委員会の委員の指名と委員会の設置について質問があり、部局長会議を経て教育研究審議会で決定するとの回答があった。
その他、内容の確認等を経て、以上の議論をふまえて役員会に提案することが承認された。
 - C 会津大学アドミッションポリシーについて
学生部長の太田委員より、会津大学アドミッションポリシーについて説明があった。
委員からは、内容が他の大学とあまり差がないのではないかとの意見や、教員や学生、高校生などに読んでもらって意見等を聞いてはどうかとの意見があった。
また、アドミッションポリシーに、外国人教員が多いことや、日本国内で国際的な教育が受けられること等を加えてはどうかとの意見があった。
以上の議論をふまえて、内容を見直した上役員会に提案することが了承された。
 - D その他
オーア委員より、新入生学力テストの英語の結果分析について説明があった。

平成18年度第3回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事概要

- 1 日時 平成18年6月28日(水) 15:00～16:31
- 2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室
- 3 出席者
委員：角山学長(議長)、黒田委員、ミレンコフ委員、太田委員、セドゥーキン委員、オーア委員、魏委員、程委員、リズィー委員、齋藤委員、小森委員、新城委員
計12名

その他宮崎教授、事務局職員

- 4 議事録署名人 齋藤委員、セドゥーキン委員
- 5 議事

議事に先立ち、小森委員より委員就任にあたってのあいさつがあった。

(1) 報告事項

A 会津大学アドミッション・ポリシーについて

学生部長の太田委員より、前回の教育研究審議会の議論の後役員会で決定されたアドミッション・ポリシーについて説明があった。

委員からは、このアドミッション・ポリシーは高校生にどのように配付するのかとの質問があり、大学の募集要項に載せる予定であるとの回答があった。また、大学の広告という点から、卒業生の進路等を掲載してはどうかとの意見があり、それらについては大学のパンフレットで対応したいとの回答があった。

また、大学の説明について外国人教員だけではなく日本人教員についても触れるべきではないかとの意見や、内容が高校生には少々難しいかもしれないとの意見があった。

B 平成19年度入学者選抜要項について

学生部長の太田委員より、平成19年度の入学者選抜の概要について説明があった。

委員からは、昨年度の推薦入試で入学した学生の状況について質問があり、成績についてはまだ分からないが今のところ特に問題なく生活しているがとの回答があった。

また、高等専門学校からの編入学はどのようになるのかとの質問があり、基本的には短期大学と同じく2年生に編入することになるが、出身校のカリキュラムによっては3年生に編入することも検討するとの回答があった。

また、志願者がいない都道府県が増えているがどのように考えているのかとの質問があり、確かに問題であると考えており広報活動などに力を入れたいとの回答があった。

C 平成18年度会津大学奨学金研究留学生の応募に対する結果について

学生部長の太田委員より、応募者と選考結果について説明があった。また、ミレンコフ委員より、選抜結果について補足説明があった。

委員からは、奨学金の金額に比べて選抜の基準が厳しいのではないかととの意見があり、これに対し、入学金や授業料が免除となるので決して厳しい基準ではないとの回答があった。

また、応募者は1名しかいなかったのかとの質問があり、今回は1名のみであったとの回答があった。

(2) 議題

A 教員選考委員会の設置について

角山学長より、語学研究センターの講師職1名の選考および産学イノベーションセンターの教員1名の選考にかかる教員選考委員会の設置について説明があった。

委員からは特に質問等はなく、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

(3) その他

- A 宮崎教授より、地球シミュレーターについて説明があった。
- B ミレンコフ委員より、先導的ITスペシャリスト人材育成推進プログラムについて説明があった。
- C 齋藤委員より、福島県情報推進監の業務について説明があった。
- D 学外の委員から、大学に対し以下の意見があった。
 - ・ 会津大学出身の教員がいる学校へOB訪問してはどうか。
 - ・ 高校生が会津大学を志願するかどうかは高校の教員の働きかけが大きいと思う。
 - ・ 社会性や一般常識に欠ける若者が多いので、人文教育にも力を入れてほしい。また地元会津のローカリズムも教えてほしい。
 - ・ 周辺地域にとって大学の身近さに欠けるところがあるから、もっと地域密着の場面が必要だと思う。
 - ・ 危機感をもって課題を発見・共有し、解決していくことが必要だと思う。